

復興島集中通信機現有品目録

上海海軍特別陸戦隊

表収現場責任者 海軍大尉 島津純喜

1180

昭和二十一年二月二十七日

中国戦区日本海軍総連絡部附海軍人尉池田克己

上海海軍特務院戦隊通信隊長殿

第三送信所(上海)ノ丁M式
短波無線電信機一組移動物件 整附

首題件別紙(第一) 日海総連(甲)第上號ニ依リ復興島ニ

無線設備ヲナス目的ヲ以テ申請中ナリトシ 別紙(第二)ノ

指令ノ通中國電台トシテ設置ノ上使用許可サレタリ以テ

復興島管理信岡光祖大佐、監督指揮下ニ小官工事擔

當者トシテ之ヲ受領復興島ニ移動設置セリ

(終)

復興島貸與兵器、総連責任者(池田尉)

ニヨリ点收ヲ受テ領收書ヲ受領シトシテ連絡

シアリ

海軍

寫

事由 令知已汎周光祖為復興島管理員設置本軍電台
所有裝置辦法在如擬辦理由

海軍總司令部駐港辦事處

文指令

港參字第228號
中華民國廿四年十月廿三日

令日本海軍總聯絡部長

福田良三

日海總連第上號呈一件

為請在借用無線電材料在復興島上設置電台由

呈悉查本軍業承周光祖為復興島管理員並令飭知照

在案茲在該島上設置本軍電台一所備與各方連絡

通訊之用關於電台之裝置等項准照來呈所擬辦

法對日進行該台並歸周管理員監督指揮除分

令外合行令仰 遵照

此令

海軍總司令部中將參謀長 曾以鼎

海軍

昭和二十一年十一月二十三日

平國海軍總司令部中将參謀長 曾以新

日本海軍總連絡部長 福田良三殿

日本海軍總連絡部工事課ニ依リ復興島ニ電台設置

ノタメ無線材料借用方申請ニ関スル指令

申請ノ件了承 本軍ハ既ニ周先祖ヲ復興島管理員トシテ

派遣シ茲ニ該島ニ本軍電台一個ヲ設置シ各方面ト通信

連絡ノ用ニ供スル事ヲ命ジ午續ヨリ了セリ

電台ノ装置設備等ニ関シテハ申請方法ノ通 許可スルニ付

期日ヲ是メ別ノ指示アル迄 スバテ周管理員ノ監督指揮

ニ其モ該台ノ進行ヲナサレ度

右指令ス

(終)

海軍

別紙第二

品名	移動電信機 附屬品 共	特設信機 附屬品 共	小型輕便電信機	電波鑑査機	電鍵	受聽器	卓上燈	三號蓄電池 三型 (6V)	同 十型 (50V)	夕分充電器	繼電器	空中線
數量	四	八	二	一	八	八	四	一	二	二	四	一五〇〇米
現保管處	江蘇艦隊司令部 三	舊艦隊司令部	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
記事				波長調定用				受信機四組 用(組)三管制線用 輕便(組)三管制線用 二A及十A各一個				

(編四納)

日海總連(甲)第十一號

昭和二十年十月十五日

中國戰区日本海軍總連絡部長 福田良三

中國海軍總司令部參謀長

海軍以鼎閣下

當總連絡部ヨリ各地、日本海軍連絡部ニ對スル無線通信
 現在第三方面軍司令部以ノ受信室及江灣、海軍送信所ヲ借
 用ニ別紙第一ノ通り實施中ナル處左記理由ニ依リ別紙第
 二ノ簡易ナル移動用電信機材ヲ最小限度借用之ヲ復興島
 ニ設置シ各地ト通信試驗ヲ實施シ結果良好ナレバ當總連
 絡部、通信ヲ逐次之ニ轉換致度候條御認可相成度

(長崎總)

記

一、第三方面軍司令部内ニ日本側通信員ヲ將來長期間ニ亘リ
出入スルハ第三國側誤解ヲ受クル虞アリ且不測事故生起

算無シトセザルコト

二、在滬日本海軍部隊復興島移駐ニ伴ヒ當總連絡部

モ其一部ヲ殘シ大部ハ將來同島ニ移駐スルコトヲ有利トスルコト

三、日本ノ歸還輸送力ガ日本海軍艦艇ニヨリ實施セラルル

豫定ナルヲ以テ之等トノ通信並ニ輸送統制ノ爲最後迄

通信確保ノ要アルコト

(終)



昭和二十一年三月五日

上海海軍特別陸戰隊通信長 海軍大尉 島津純喜

日本海軍總司令部海軍大尉 池田克己殿

慈諭 兵器 莫收 件 依頼

貴官ニ中國劍命令ニヨリ旧海軍送信所ヨリ復興島ニ移動セル丁
M式短移動送信機一組ハ該島所在他ノ無線兵器ト一様
貴官ニテ莫收処理方相煩度

陸

(二四一二 陸軍工務)

海軍